



旅葬
たびそう



巡輪徳
じゅんりんさい





紅葉が美しい山間の道を、私たち家族を乗せたバスは、
父の故郷ニセコへと向かっていた。
かたわらの棺に眠る父は、少し微笑んでいるように見える。
「帰りたいって言ってたよね」「やっと帰れるよ」と、
私たちは口々に語りかけた。



今日は、父と過ごす最期の時間 —— 「旅葬」

それと同時に笑いも込み上げてきた。

我慢できずに私の目には涙があふれてきた。

「お父さん、飲み物をよくこぼしてたよね」

それが伝わったかのように、父を見つめながら母が言う。

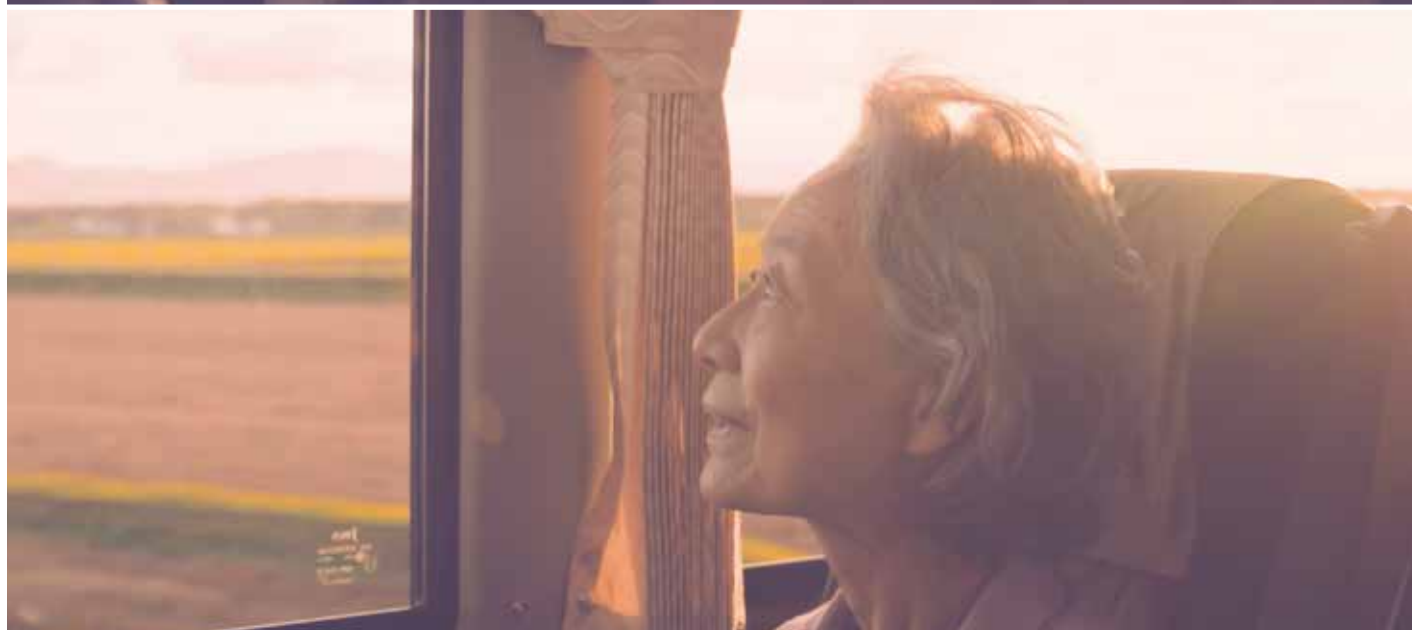
と答える私の脳裏に、コーヒーをこぼす父の姿が浮かぶ。

「お父さんが飲むのは、いつも甘い缶コーヒー」

妹がつぶやく。

「散歩に行くと、ここで飲み物を買ってくれたよね」と、

父の実家に近づくとき、見慣れた自動販売機が目に入った。



バスは故郷を巡り、
明るく楽しい人だった父の記憶を次々とよみがえらせていく。
そうして、私たち家族の最期の思い出が紡がれていく。
思い出は柔らかな泡のように、私たちを包む。
きつと歩き出せる。一緒に過ごしたこの時間があるから。

お葬式
旅する
思い出を

「旅葬」は、専用車両で旅をしながら行うご葬儀です。

故人様との思い出の地を巡り、ともに重ねてきた時の輪を偲ぶ。

Jun 巡

Rin 輪

Sai 偲



大切な思い出を拾い集め、分かち合う旅へ。

旅葬は、皆様の心に残る思い出をひとつひとつ拾い集めて共有し、故人様に思いを馳せるご葬儀です。ご自身だけが知っている故人様の思い出を伝えたり、知らなかったお姿をお聞きしたりする旅は、別れの悲しみに寄り添うとともに、新しい思い出を紡ぎます。

納骨式やご法要にもご利用いただけます。

ご葬儀だけでなく、納骨式やご法要の際にご利用いただくことも可能です。ご家族やご親戚、故人様のご友人など、普段は集まる機会の無い方々がご一緒に、故郷や思い出の地を巡ることで、懐かしい記憶がよみがえる時間をお過ごしいただけます。

日帰り
プラン

生まれ故郷を巡る旅。

【親族9名様】

故人様は積丹のご出身。数年前より札幌の病院に入院しており、積丹に自宅はあるものの、誰も住んでいない状況でした。故人様は美国港でウニ漁師として働いており、そのウニを地元の飲食店に卸していました。お墓も現在は積丹町となっている美国町にあり、故人様の亡き夫が眠っています。高齢のため、札幌での葬儀には参列できない故人様のいとこの自宅にお伺いし、車内で最期のお別れ。故人様の生まれ故郷をご遺族様と一緒に巡る最期のご旅行となります。

11:40

ふじ鮨 積丹本店

家族でよく行っていたお寿司屋さん。故人様が獲っていた積丹のうにを食べてほしいとスタッフ4名分のうに丼を注文してくれました。家族が食べたのは思い出のみそラーメン。

12:45

美国港

うに漁師であった故人様が漁をしていた港。船に乗って漁に出る故人様を小さいころ見送っていた思い出の港。たくさんの思い出話で盛り上がりました。

13:10

実家へ行く唯一の道

実家へ行くにはこの山道を歩いていく。この1本の道だけでも話が盛り上がる。家族先導の元、スタッフもたくさんのお話を聞かせていただきました。

13:15

今はだれも住んでいない実家

誰も住んでなく草木が茂り近づくことは叶いませんでしたが、遠くからでも実際に見るご実家は皆さまにとって思い出深いもので懐かしがられておりました。

13:30

ご主人様が眠るお墓

少し時間が空いたので、お墓参りに行きました。みんなて来る事は中々ありません。おじいちゃんにみんなの手を合わせてきました。

14:00

車内で最期のお別れ

札幌での式には参列できない故人のいとこ達が集まってくれました。車内でお花でのお別れをしていただき、こうして最期に顔を見てよかったと話しておりました。



ご宿泊
プラン

7校・5市町村、教師人生を巡る旅。

【親族6名様】

高校教師であった故人様。夕張出身ですが、道内各地に教え子や同僚の先生がいます。故人様の歩んでこられた教師人生と大切な方たちを巡る旅となりました。

8:00

自宅出発

11:00

江別の高校着

同期が江別に住んでおりお別れ。新卒時の失敗談をたくさん聞かせていただきました。

12:00

滝川の高校着

教え子はすでに40歳以上でした。部活の顧問で、夏には部員分のアイスをよく買ってくれたそうです。

14:00

北竜町着

同僚の先生や生徒さんはいませんが、ひまわり畑がお気に入り携帯の待ち受けにしていたのを思い出します。

16:00

旭川着

旭川市内で3校に赴任。先生や生徒さんなど何十人も到着を待っていました。

17:30

富良野着

最後の赴任先は富良野。同僚の先生方がサプライズで卒業証書を作ってくれていました。

18:30

宿泊先(富良野のコテージ)着

夕食時には、同僚の先生方が来てくれました。笑いあり、涙ありの楽しい時間を過ごせました。

翌日

富良野を出発

芦別経由で12号線へ。いつもこのルートで自宅に帰って来ました。今回もこのルートで火葬場へ。



ご法要や納骨にも ご利用いただけます

もう一度、あの場所へ。

一緒に、最期の旅に出よう。
家族の思い出を運ぶ、巡輪偲で。



ずっとそばにいて、
伝えたい言葉を尽くして。
特別な時間をここで。

座席数 23席

開放感にあふれゆったりとくつろげる空間 各座席にテーブル、フットレスト付き、冷蔵庫も設置

棺を安置する場所、骨箱・遺影台を備えた車内は、広々としてゆったりとおくつろぎいただける空間になっています。故人様の写真や映像を観たり、好きだった音楽を聞くことができる映像・音響設備をはじめ、換気システムや空気清浄機なども完備している大型バスです。



棺の安置場所、骨箱・遺影台を設置



リフトを備え、車いすのままご乗車が可能

安心・安全のクリーンな環境づくり

懐かしい映像や音楽とともに



- ・ 第一種換気システム
- ・ プラズマクラスターイオン発生装置
- ・ アルコール消毒
- ・ 検温計



- ・ テレビ2台
- ・ DVD、CDプレイヤー
- ・ マイク
- ・ カラオケ



旅葬で叶えられること

JUN RIN SAI

目的地、思い出の地、お会いしたい方々など、訪れたい場所や

叶えたい想いについて事前にしっかりヒアリングさせていただき、プランを作成いたします。

ご心配な事などもお気軽にご相談ください。

01

棺とともにバスの旅を
していただけます。

旅葬専用バス内に、故人様をお納めしたお棺を安置し、ご家族
やご親族の皆様にご同乗いただいて、一緒に故郷や思い出
の地を巡る旅をしていただけます。

03

ご葬儀や旅葬にご出席いただけない方の
元へお伺いいたします。

ご葬儀や旅葬に出席したいけれどできないという方々のため
に、故人様とお会いしていただける機会を設けるバスルート、
お別れ会のプランニングも可能です。

02

オーダーメイドで
プランをお作りいたします。

目的地、思い出の地、お会いしたい方々など、訪れたい場所
や叶えたい想いについて事前にしっかりヒアリングさせていただき、
プランを作成いたします。ご心配な事などもお気軽にご相談
ください。

04

ご予約や備品など、
事前の準備もお任せください。

たとえば「思い出のレストランで食事をしたい」「親戚に献花を
してもらいたい」といったご要望がありましたら、お店の予約や
駐車場の確保、献花のご用意など、必要な手配は当社スタッ
フが承ります。

05

北海道内に宿泊施設を
ご用意しております。

札幌、旭川、函館、富良野に宿泊施設をご用意し、遠方
を訪れたいというご希望にも対応させていただきますので、
故郷や思い出の場所が遠くて日帰りで行くのは難しいという
方も、ご相談ください。

06

当日はガイドとして、
ご同行いたします。

当日は当社スタッフがご同行いたしますので、ご質問やご
心配なことなど、いつでもお気軽にご相談いただけます。また、
可能な範囲で予定の変更にも対応させていただきます。

07

メモリアルムービーを
制作いたします。

旅葬当日の様子を映像に収め、メモリアルムービーを作成さ
せていただきます。大切な時間をいつでも振り返っていただ
けるよう、DVDに保存してお手元にお届けします。



story_01

故郷・今金町に 母を連れて行ってあげたい。

札幌市清田区 O家 ご長女様

22年前に亡くなった私の父と母は、道南の今金町で生まれ育ち、そこで出会いました。父と母は、私が見ていても

病院から連絡があった頃、偶然「旅葬」のを知り、「母とのお別れにふさわしいのは、このお葬式しかない」と思いました。

私はずっと前から、いつも明るかった母のことは、心からの笑顔で見送りたいと思っていました。

ある日、母が危ないと連絡を受け、妹と一緒に病院へ駆けつけました。母は以前と変わらない声で「さきこ」「のぶこ」と名前を呼んでくれましたが、2日後、静かに旅立ってしまったのです。

新型コロナウイルスが蔓延しはじめた2年ほど前から、私の母は病院に入院していて、一年以上会えない日が続いていました。

こうして私たちは、父と母の故郷今金町に向かうことになったのです。

でも、コロナ感染者が多い札幌の状況を考えると、叔父と叔母は、私たちが行くことに不安を感じていました。私はいとこに連絡し、説明を繰り返しました。結果、私たちがバスから降りないことを条件に、今金に行くことを了承してもらえました。叔父と叔母は、窓越しに母を見送ってくれることになりました。

恥ずかしくなるくらい仲が良く、父が急死した時の母の辛さは想像を絶するものだったと思います。そんな2人が出会った今金町に、母を連れて行ってあげたい。そこには母の姉と弟、つまり私の叔父と叔母もいるので、最後に合わせてあげることも出来る。私は、母の葬儀を旅葬にすることに決め、行く先は今金町しかないと思いました。

8:00 ウイズハウス清田を出発

父の写真と母お気に入りの帽子も一緒にバスに乗車しました。

親族20名が乗り込んだ車内はとてにぎやかでした。私はマイクを握り、クイズの進行をしながら、「こんなお別れがなかったんだ」という思いが込み上げてきました。

「お母さん、みんなの声聞こえてる?」

何度も母に声をかけながら、私たちは今金へと向かいました。



12:00 今金町到着

今金町に到着すると、当初、今金入りを反対していた叔父と叔母が、お花を用意して待っていてくれました!

「姉さんの顔が見たい」

そう言って叔父がバスに乗り込み、母の顔を見てお別れしてくれたこと、叔母が私たちを自宅に案内してくれたことは嬉しい誤算で、私たちの心は驚きと嬉しさでいっぱいになりました。

叔父は母の学生時代の話がたくさん聞かせてくれました。私たちは、今まで知らなかった母のエピソードを聞くことができ、改めて今金に来て良かったと感じました。

その後、母の実家跡地や父と母が出会った場所など縁の地を巡り、青空の下、皆で昼食を食べました。



13:30 帰路へ

旅葬の間、母の眠る棺のかたわらで、皆にぎやかに過ごすことができました。

何一つ後悔することなく心からの笑顔で母を送り出せて、「旅葬は私たちのためにあるプランだ」と強く感じました。





story_02

あんなに会いたがっていたから、 最期にひと目会わせてあげたい。

札幌市西区 M家 60歳 ご長女様

私の母は、食べることとおしゃべりが大好きな人でした。お盆やお正月に母の兄弟やその子どもたちが集まる時は、私と一緒に餃子を包んだり、筑前煮を作ったりして、みんなが来るのを楽しみにしていました。ここ2年ほどはコロナ禍で集まれる状況ではありませんでしたが、料理雑誌をめくっては、「これはみんなが好きそうなお料理だね」などと話し、また集まれるのを楽しみにしていました。

そんな母が肺炎をこじらせ、あっけなく亡くなった時は本当に驚きました。驚きながらも、お葬式をしなければいけないので、会員になっていたウイズハウスさんに連絡をしたところ「旅葬」について案内していただきました。

お盆やお正月に集まっていた母の兄弟は高齢で、葬儀に来てもらうのは大変かもしれない。でも、あんなに会いたがっていたのだから、最期にひと目会わせてあげたい。そんな思いで、母の葬儀は「旅葬」にすることに決めました。

09:00 ウイズハウス発寒出発

札幌に住む親族がウイズハウス発寒に集合し、そこから小樽と余市にある母の兄弟の家と、南区にある母の親友の家を巡る旅葬に出発。

10:00 小樽到着

母の妹で私の叔母が住む、小樽に到着。迎えてくれた叔母は、やはり突然の別れに実感が湧かないようで、「急すぎて、心の準備ができなかった」と言いながら、母の頬に触れて別れを惜しんでいました。母と同じく食いしん坊の叔母は、母と叔母の好物のみたらし団子を用意して、「私と姉さんは、昔から花より団子だから」と言いながら、柩に供えてくれました。

11:30 余市到着

母の弟で私の叔父が住む余市に到着。いつも明るい叔父の寂しそうな顔を見ると、また悲しみが込み上げてきましたが、「お母さん、叔父さんに会えてよかったね!」と母に声をかけました。叔父は母の大好きなお赤飯を用意してくれていて、やっぱり兄弟はよくわかっているなど、少し可笑しくなっていました。

14:00 札幌市南区到着

母の学生時代からの友人宅に到着。友人Yさんは、「急でびっくりしたね。でも、お母さんは明るく送って欲しいって言ったから元気出そうね」と声をかけてくれました。そして、「お母さんはね、お葬式には拍手をして欲しいって言ったの。せっかく楽しく生きたから、悲しまないで拍手で送って欲しいって」母がそんなことを言っていたなんて初耳でしたが、それを聞いたみんながバスの中で拍手をしてくれました。

15:30 ウイズハウス発寒到着

今日の出来事や母の思い出を話しながら、最期の夜をみんなで過ごしました。突然のお別れになってしまいましたが、叔父や叔母、友人に会うことができ、母も喜んでいました。

story_03

故郷の羽幌町で 友人達に会わせたい。

小樽市 S家 55歳 ご長男様



4年前に母が他界してから、父は一人、羽幌で暮らしていました。友人たちや近所の人がいると言っても高齢の一人暮らしは心配で、2年前に父が骨折したのを機に、銭函にある私の家で同居をはじめました。

父は友人たちとは離れてしまいましたが、私たち夫婦や孫たちと楽しく暮らしていました。ところが体調を崩し、入院することになりました。医師からは長くはもたないと告げられました。余力のあるうちに羽幌の友人たちに会わせたいと思いましたが、体力的にそれも難しく、希望を叶えられないまま父は亡くなりました。

せめて最期に故郷・羽幌で友人たちに会わせてあげたいと、「旅葬」を行うことにしました。

1
日
目

10:00 ウイズハウス手稲を出発

「父さん、やっと羽幌に帰れるぞ」と声をかけ、バスが出発しました。オロロンラインを通りバスは羽幌へと向かいます。父の若い頃の写真をムービーしてもらい車内で上映すると、子どもたちは「おじいちゃん若いね」「けっこうイケメンだ」「父さんに似てないね」と盛り上がっていました。

12:00 増毛町で昼食

寿司屋で父の好物だった海鮮丼を食べた後、日本酒が大好きだった父に供えるために酒蔵を訪ね、地酒を購入しました。

16:00 羽幌町到着

羽幌が近づくと、父とこの海で遊んだことが思い出され、懐かしさで胸がいっぱいになりました。

実家に行くよりも先に、父にとって一番大切な人である母が眠るお墓に向かいました。

「母さん、父さん連れてきたよ。もう寂しくないな」と墓前に報告すると、少しだけ肩の荷が降りたような気がしました。

実家に到着後は、手分けして室内を掃除し、食事の用意を済ませました。庭に出ると、父とキャッチボールをしたこと、叱られて締め出されたことなど、子供時代の出来事を思い出しました。

18:00 通夜振る舞い開始

近所の方々や父の友人が来てくれて、賑やかに父を偲ぶ時間を過ごしました。私が知らなかった父の話をたくさん聞かせてもらって、なんだか気恥ずかしいような複雑な気持ちになりましたが、こんなにたくさんの人に支えられてここで暮らしていたのだと改めて実感することができました。

10:00 最期のお別れ

実家で父と最期のお別れをしました。通夜振る舞いに来てくれた方たちも参加してくれて、みんなで父に語りかけながら別れを惜しみました。母を火葬した時と同じ施設で火葬を終え、帰路につきました。

心残りだった羽幌への帰郷が叶えられ、感無量のお葬式でした。

2
日
目

story_04

ドライブが好きだった父。 思い出の地、支笏湖へ。

札幌市手稲区 K家 46歳 ご長女様



私にとって父は、物知りで、器用で、絵もスキーも上手で、なんでも出来るスーパーマンでした。そんな父が膵臓癌を患っていることがわかったのは2019年12月のこと。それから1年半の闘病の後、父は帰らぬひととなりました。

長く自営業を続け多忙だった父ですが、たまの休日には、母や私、私の子どもたちをドライブに連れて行ってくれました。特に、支笏湖、恵庭を回るコースを気に入っていて、病気が良くなったらまた出かけようと約束していましたが、それを叶えることはできませんでした。

元気だったころに出かけた思い出の地を、最期と一緒に巡りたい。私たち家族はそう思い、「旅葬」を選ぶことにしました。

8:00 自宅出発

ドライブの時いつもお弁当を作っていた母が、この日もお弁当を用意してくれました。

母、弟夫婦、私たち家族が集合し、叶えられなかった最期のドライブに出発しました。

10:00 支笏湖到着

以前一緒に乗った水中遊覧船に乗船。水が濁っていてよく見えませんが、前に乗った時は水中がよく見えて、父が珍しく興奮していたことが思い出されました。

外出する時、いつも同じカバンを斜めがけにしていた父の姿がよみがえり、一緒に出かけられた元気な頃の父が恋しくて涙が溢れました。

12:30 恵庭溪谷到着・お弁当タイム

母が広げたお弁当には、おかかおにぎり、天ぷら、ポテトサラダ、フルーツなど、父の好物がたくさん詰まっていました。

「お父さん、お母さんがお弁当作ってくれたよ」「お母さんの料理が大好きで、外食しても文句ばかり言ってたよね」「今年の父の日には、少しだけだったけど大好きな鰻が食べられてよかったね」と食べ物の思い出を話しながら、みんなでお弁当を食べました。

14:00 えこりん村到着

数年前、猛暑の中に訪れたえこりん村。「あの日は暑かった」「お父さんもうざりしてた」とみんなで言いながら、園内を散策しました。

写真を撮影することが好きだった父は、いつも孫たちの写真を撮っていました。それを思い出したのか娘が「おじいちゃんが一緒だったら、絶対に羊の写真を撮ったね!」と言っていました。

17:00 帰宅

今回巡ったコースのことだけでなく、私が幼いころに出かけた思い出もよみがえり、元気だった頃の父を懐かしく感じる時間を過ごすことができました。

より自由に。

感動創造を通じて人々の心豊かな人生に貢献する

めもるホールディングスは、多様なセレモニーを叶える「香華殿」、家族葬の「ウイズハウス」をはじめライフエンディングステージに関わるさまざまな事業を展開しています。



香華殿 / 札幌・恵庭・北広島



ウイズハウス / 札幌・旭川・恵庭・北広島・千歳・苫小牧・江別・函館



0120-323-099

電話ですぐに解決。

株式会社メモリアルむらもと

365日24時間、深夜早朝も専門相談員がお応えします。



info@jun-rin-sai-jp



jun-rin-sai.jp 公式HP